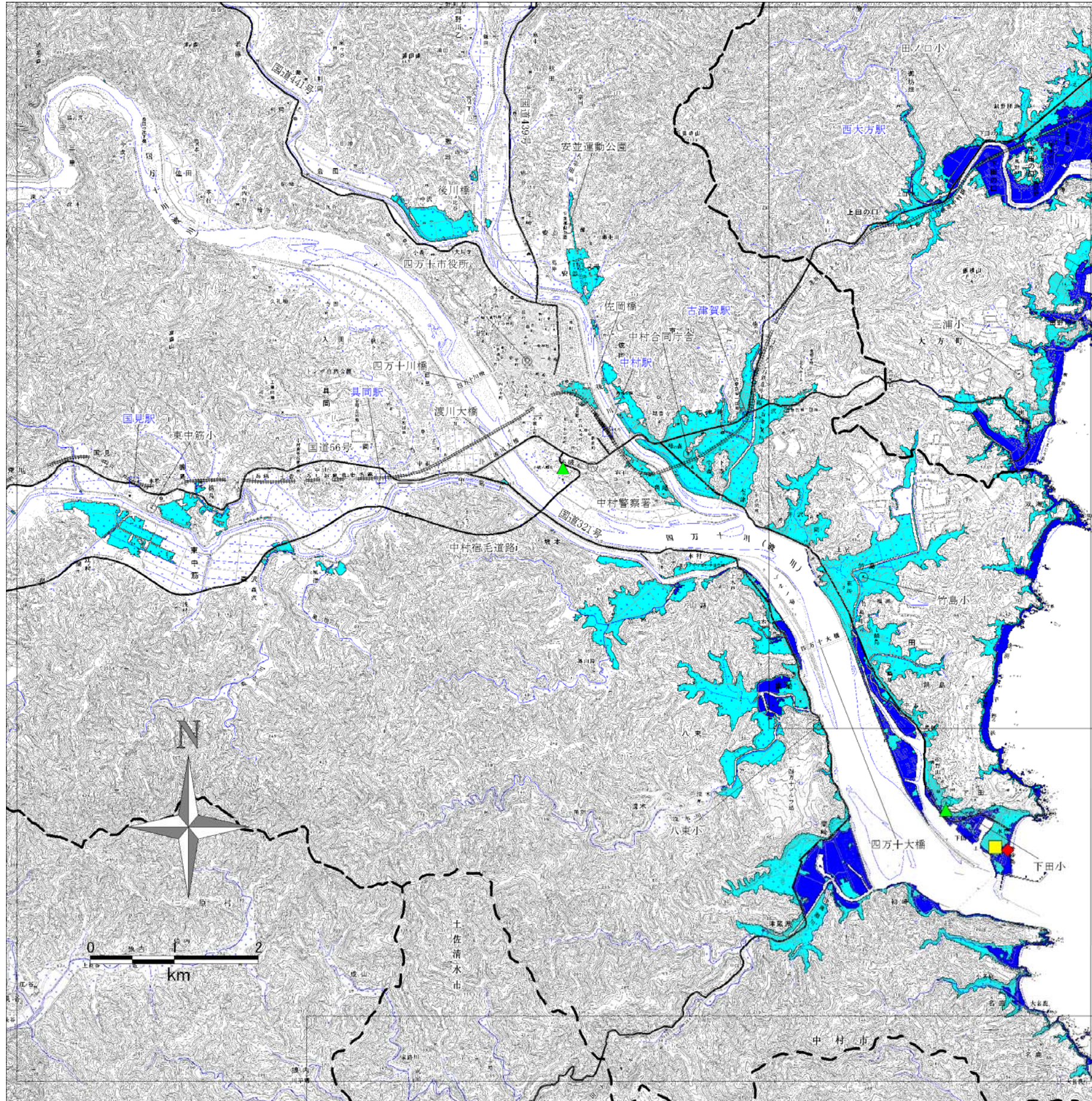
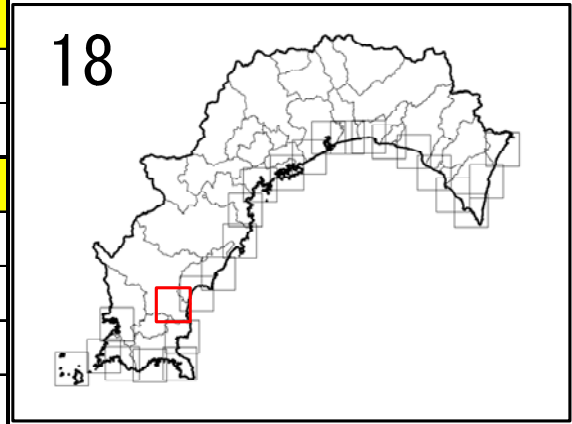


6-6 津波浸水域・津波痕跡重ね合わせ図 18 四万十市



＜津波浸水予測結果＞	
	最大クラスの浸水域
	安政南海地震クラスの浸水域
＜古文書・石碑＞	
	慶長地震（1605）
	宝永地震（1707）
	安政南海地震（1854）
	昭和南海地震（1946）



【津波予測や過去に発生した津波で「同じもの」は一つもないことがわかります】

- ・今回想定した南海トラフ巨大地震が起こったときの津波（最大クラス）に加えて、県がこれまで防災対策の前提にしてきた安政南海地震クラスの津波（比較的発生頻度が高いクラス）や、「このあたりには津波が来た」と記されている津波痕跡（古文書や石碑）のあるポイントを示しています。
- ・これを見ても分かるように、同じ津波は一つとしてありません。しかし、発生した時点ではどの程度の規模かが分からないため、最善を尽くして避難することが大切です。
- ・**想定と違うことも起こりうることを忘れないようにしましょう。**

その1 「事前の備えが大切。あなたの命を守るのはあなた自身！」
 その2 「思いこみは禁物。想定にとらわれるな！」
 その3 「取り組みに無駄はない。できることから実行を！」

注意事項

- ・過去の津波発生時と現在とでは、地形や土地利用状況が異なるため、同じ高さの津波でも浸水域・浸水深の影響は大きく違います。
- ・津波被害記録の中には、被害を受けた場所を示すものとして、地名や集落名といった広い範囲を表す記録もあります（下図参照）。今回、このような記録については、役場やその集落の中心となる位置などに代表させて表示をしています。
- ・位置情報については、今後も精査を続けていきます。

香南市赤岡町の例
【文献記録】
 「潮は在所残なし流家三ヶ」
 「本町南川下の浜残らず流し」
 「岸本赤岡の町一軒も残らず押し流し申す也」



被害の記録はほぼ赤岡町全域にわたる

※現在の基図は古いものが含まれています。最新の基図が発行されましたら、差し替えとなります。